

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第3回委員会 開催日：9月12日。出席者：河西委員長，ほか20名。

1) ISOTC17 幹事国の件

日本が幹事国を引受けるとなると，資金，仕事量の面で協会単独でやっつけていけるか不安がある。鉄鋼連盟の運営委員会で承認願ひ，スタートすべきである。

2) 会員，勧誘の件

現在実質会員数は約9500名であり，従来各大学金属関係学科の教授を通じて学生会員の勧誘を行っていた。協会役員，共研など各委員会委員宛に勧誘又配布などに協力を願ひ，一層の一般会員増加を計りたい。

3) 田畑専務理事，東南アジア鉄鋼協会理事会シンポジウム出席報告

上記シンポジウムが9月5～9日タイ国で行われた。日本からの発表論文は4件であった。

編集委員会

第7回和文会誌分科会 開催日：9月2日。出席者：長嶋主査，ほか16名。

1. 21件の論文審査報告がなされ，修正依頼2件，掲載決定18件であった。

2. 「鉄と鋼」第63年1号(1月号)に論文12件，技術報告1件，特別講演1件，委員会報告1件が掲載決定した。

第7回欧文会誌分科会 開催日：9月6日。出席者：荒木幹事，ほか6名。

1. 7件の論文につき審査報告がなされ，掲載可3件，照会后掲載可3件，掲載不適当1件であった。

2. 「鉄と鋼」63年10号より1件の研究論文，63年13号アブストラクトより7件の研究論文と4件の Technical Report，63年14号アブストラクトより5件の研究論文，及び「鉄と鋼」以外の国内誌より4件の Technical Report を勧誘することとなった。

ヘンダーソン賞選考小委員会 開催日：9月2日。出席者：長嶋晋一，ほか11名。

1. 12件の候補論文について，慎重な検討がなされた結果，下記論文に，ヘンダーソン賞が決定した。

松尾 孝・篠田隆之・田中良平：

「17Cr-14Ni 鋼の高温強度に及ぼす置換型固溶元素(W, Mo, Al, Mn, 及び Cu)の影響」

鉄と鋼，63(1977)6, pp. 980~989

共同研究会

鋼管部会

第21回継目無鋼管分科会 開催日：9月1～2日。出席者：田中部会長，永井主査，ほか35名。

1. 第1日目(マンネスマン関係)

(1) ローリングスケジュールについて

(2) 管の機械的性質について

2. 第2日目(熱間押出関係)

(1) ステンレス鋼管の内面肌について

(2) ビレット加工について

上記共通議題について，資料に基づき活発な発表，討議が行われた。

尚，今回より小滝主査に代り永井氏(日本鋼管)が主査となられた。

鉄鋼分析部会

第50回化学分析分科会 開催日：5月24日。出席者：岸高主査，ほか39名。

1. JIS 原案の審議

Mn, Cr, Cu

2. JIS 定量法案の審議

Mo, V, Al, As, Nb, Ta, Te, Ni

3. その他

「鉄中の微量硫黄定量法の検討結果」の審議および Te 共同実験要領の審議を行なった。

標準化委員会

第80回幹事会 開催日：8月30～31日。出席者：島田幹事長，ほか15名。

1) ISO/TC155(ニッケル，ニッケル合金)の国内審議機関は電子材料工業会が継続することになった。

2) GATT とスタンダードコード案の説明をうけ今後 JIS 及び ISO に対する取組み方について討議した。

3) JISC の部会再編成された背景について説明を受けた。

4) ステンレス協会における標準化活動状況を伺った。

5) PLACO から提案の金属材料の Numbering System について賛成する態度を表明した。

6) 鋼矢板，配管及び熱伝達用鋼管を改正するための分科会の設置と構成が承認された。

7) ガラスビートによる鉄鉱石類のけい光X線分析法協会規格案が承認された。

ISO 鉄鋼部会

第22回 SC10 分科会 開催日：9月2日。出席者：脇本主査代理，ほか7名。

1. 国際会議対策

N389, 390, 391, 396, 399 に対する日本コメントを作成した。なお，399 の日本コメントを補定するため，TC17/SC4 幹事国 Dr. KLAUS に 399 の改訂 Draft を送付することにした。

第3回 SC16 分科会 開催日：9月1日。出席者：山南主査，ほか17名。

1. 第1回マドリッド会議報

鉄筋用鋼材にあつては異形の種類が、400、500 N/mm² の2種類に絞られ、寸法もmmラウンドとり、曲げ戻し試験の実施、炭素当量の厳格化（日本はガス圧接施工法のためCが高い）など日本の実状に沿わぬ方向に進んでいる。PC鋼材についてはEUROMORM 138の素案の説明に終始し具体的な討議は無かつた。

2. 対策

日本コメントは事前にアメリカ、カナダに送り、両国の支持、協力を得るよう資料の準備を行うことにした。

.....

第57回特殊鋼分科会 開催日：8月25日。出席者：石川主査，ほか14名。

1. SC材

本文・解説について検討，審議を完了した。

2. H鋼

SCr435HのC量の調整，SCM417HのC量の範囲を除き審議を終了，最終案を書面審議する。

3. 合金鋼

鋼板，平坦度数値，溶接補修，記号体系の取扱い，SI単位の併記などについて検討した。次回本文，解説の第2次案を検討する。

.....

第56回鋼管分科会 開催日：8月26日。出席者：丸岡主査，ほか14名。

1. 鋼管規格案

配管用8規格，熱伝達用4規格の第4次案について検討した。

2. 圧力容器の構造規格

現在HPI-JPMで進行中のJIS B 8243「圧力容器の構造」における材料の使用基準の改訂に関する提出資料の紹介と問題点の討議を行った。

3. 配管用鋼管の標準寸法

JIS寸法をISO寸法に切換えるためのISO寸法採用検討推進委員会の設置と切換えスケジュールについて検討した。

特定基礎研究会

第1回原料炭の基礎物性部会 開催日：8月19日。出席者：木村部会長，宮津幹事長，ほか26名。

出席委員の自己紹介の後，木村部会長より，「原料炭の基礎物性部会」の開催に至るまでの経過など全般的説明があつた。

引続き，「委託研究の研究方向ならびに審議」にはいり，研究者の木村（通産・公害資研），竹下（九大），大内（北大），大谷（東北大），館（東大）の各委員から研究計画について説明があつた。

研究計画の内容について若干の要望が出されたが，各研究計画とも原計画通りで進めることになつた。

鉄鋼基礎共同研究会

特殊製錬部会

第9回第2分科会 開催日：8月29日。出席者：相山主査，郡司第3分科会主査，ほか14名。

1. 研究報告として次の3件が発表され，討論を行った。

(1) ESR溶解条件とメタルプール深さに関する一考察（大平洋金属：佐藤・塚本）

(2) 20t ESKの鋼塊表面肌と操業因子について（日鋼室蘭：岩波・舟崎）

(3) ESR溶解における操業条件の効果（大同中研：高木）

2. ESRに関する用語の統一を行うため，統一用語案が主査より提出され，検討を開始した。

第10回第3分科会 開催日：8月30日。出席者：郡司主査，ほか15名。

1. 次の4件の研究発表があり，討論が行われた。

(1) 高C-Cr-Mo ESR鋼塊のデンドライト組織に与えるTi, Zrの影響（日鋼室蘭：鈴木）

(2) 極性と滴の大きさについて（名大：井上，浅井）

(3) 小型ESRにおけるスラグとメタルの温度分布（川鉄：小口，旦部）

(4) ESRインゴットの凝固過程の数学モデルによる解析（東大：梅田）

2. 最近のソ連におけるESRに関する文献をパトソ研究所でまとめたものが郡司主査より紹介された。